

国営土地改良事業等再評価
現地調査概要

北海道開発局農業水産部

目次

(国営かんがい排水事業)

ふらの地区	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
別海西部地区	・・・・・・・・・・・・・・・・	3
サロベツ地区	・・・・・・・・・・・・・・・・	5

平成 29 年度 再評価「ふらの地区」国営事業評価技術検討会
現地調査概要

日 時：平成 29 年 6 月 6 日（火） 15:00～16:00

出席者：（技術検討会）長澤委員長、岡村委員、紺野委員、中原委員、波多野委員、
森委員

（地元関係団体等）農業者、富良野市、中富良野町農業センター、富良野土
地改良区、JA ふらの

事務局：北海道開発局

概 要：

【現 地】整備箇所など（東郷ダム、本幸ファームポンド）

【意見交換会】

委員から、事業に対する効果、要望、期待等に関する質問があり、参加団体から以
下の回答や意見、状況説明等や委員から評価に関する意見があった。

・ふらの地区は高台にあり、昔から飲料水の確保さえも難しい地域であった。農業用
水の確保は念願である。

・現在、暫定的な水利権を使って、計画の 5 割程度のかんがい用水を利用している。
かんがい施設が整備されている地域は、農地の流動化が進み、また後継者も育ってい
るように思う。計画的にかんがい用水を利用できるため、6 月から 7 月にかけて、一
週間おきに播種を行う時差蒔きのスイートコーンを本州に出荷できている。

・干ばつ年には、暫定的な水利権ではかんがい用水が足りないため、番水を行い、工
夫しながら限られたかんがい用水を使っている。早期に全量取水できることを願って
いる。

・（中富良野町の農家）かんがい用水の利用については、まだ経験が浅い。散水のタ
イミングや量、風向き等との関係などについて、先進地視察などを行いかんがい技術
の習得に努めている。

・計画通りのかんがい用水が使えるようになると、玉葱などの収益性の高い作物の面
積を増やしたり、ビート等の反収を上げるような取り組みを行っていきたい。

・地区内の土壌は少し硬い性状のため、効果的な散水を行う上でも麦稈など有機物を
投入するようにしている。

・自然環境の配慮としては、作物をよく観察し、残留性の高い高価な農薬を利用しな
いように努めている。結果的に、これがコスト低減に寄与している。

・農家の戸数減少対策については、個人経営の農家が離農跡地を継承し、面積を拡大していく一方、法人化経営も必要になってくると思う。JA ふうのでは「アグリ」という農作業の請負・人材派遣グループがあり、利用は最近増えている。

・パイプライン等のかんがい施設の維持管理は土地改良区が行っていく。土地改良区も人材不足の課題があるため、技術者を確保する観点から若い職員を雇って行きたい。

以 上

平成 29 年度 再評価「別海西部地区」国営事業評価技術検討会
現地調査概要

日 時：平成 29 年 5 月 24 日（水） 14:00～15:00

出席者：（技術検討会）長澤委員長、岡村委員、紺野委員、中原委員、波多野委員、
森委員

（地元関係団体等）農業者、別海町、JA 道東あさひ

事務局：北海道開発局

概 要：

【現 地】整備箇所など（肥培かんがい施設、西風連川排水路、TMR センター）

【意見交換会】

委員から、事業に対する効果、要望、期待等に関する質問があり、参加団体から以下の回答や意見、状況説明等や委員から評価に関する意見があった。

・農家が規模拡大するには費用の面で課題があった。国営事業による用排水施設の整備により、牧草収量の増、労働力の軽減を感じている。また、地域で導入した TMR センター（コントラ含む）により、機械を購入する必要等がなくなり、次の担い手や新規就農者がスムーズに酪農経営を始められている。加えて、コントラクター及び TMR による草地管理により、農家は牛体の管理に費やす時間が増え、経営規模が拡大でき収益も上がる。

・本事業による整備で、畜舎周辺的环境が大きく改善された。後継者もこういう環境で仕事ができるなら、酪農を継いでも良いと感じているように見える。

・排水路の整備前には、低平地の圃場は過湿により、農作業機械が入れず、採草できなかったが、排水路が整備され土地生産性や作業性が上がった。

・土砂緩止林や排水調整池については、草刈り等の維持管理を行う必要はあるが、排水路への土砂流入を防ぐ点、また景観上も良く非常に大きな効果があると思う。

・以前よりタンチョウをよく見かける。これは用排水路の整備により、タンチョウが食べるような餌（魚）が増えてきたものではないかと思う。先行地区の完了後、西別川に水質改善の目安となるバイカモが下流まで戻ってきたと漁業関係者が言っていた。漁協関係者も本事業に期待している。

・20 年前に西春別に訪れたことがある。風景も臭いも昔の記憶が間違っていると思うほど違っていた。整備された成果であることは勿論、地元関係者の努力の賜物と思った。

・通常、1番草、2番草での刈取り後に追肥するが、肥培かんがいでスラリーを散布することによって、ほぼ2番草は追肥しなくて済んでいる。投入する肥料の量が削減され、肥料代は安くなっていると思う。

・肥培かんがいの整備前は、ふん尿の貯留施設が小さかったため、牧草の生育状況ではなく、貯留状況をみながらふん尿を農地に散布していた。本事業で、十分な容量を持つ肥培かんがい施設が整備されたことによって、適切な時期に散布できる形になってきている。

以上

平成 29 年度 再評価「サロベツ地区」国営事業評価技術検討会
現地調査概要

日 時：平成 29 年 5 月 16 日（火） 13:30～15:00

出席者：（技術検討会）長澤委員長、岡村委員、中原委員、波多野委員、森委員
（地元関係団体等）農業者、豊富町、JA 北宗谷

事務局：北海道開発局

概 要：

【現 地】整備箇所など（清明第 2 号排水路、農地保全工、緩衝帯、TMR センター）

【意見交換会】

委員から、事業に対する効果、要望、期待等に関する質問があり、参加団体から以下の回答や意見、状況説明等や委員から評価に関する意見があった。

・本事業地区は、国営の開墾事業等が行われ、農地の造成や規模拡大が進んだ。しかし、泥炭土に起因する地盤沈下等の進行により、本事業の実施前は、暗渠排水が悪くなったり、排水路が詰まったりと大型機械が入れない状況であった。

・農協では、草地型酪農が主であるこの地域で、コストを下げていくことを目指しており、本事業や畜産クラスター事業等などにより成果がでていいる。コントラクターの取組みなど良質な牧草を適期に短時間で収穫できる体制も整い、この 2 年間は牧草の収量は対前年比プラスに転じている。

・サロベツ湿原を守ろうという考えから、湿原と農地の境界に緩衝帯の設置を行っているが、緩衝帯の用地については、地元合意を得て農地を提供している。農家の環境に対する意識がしっかり芽生えており、農家から「自然と共存し、自然に守られているから農業ができる」という言葉が出ているなど、本事業の推進の中で農業者の環境と農業の共存共栄への意識改革ができてきており、理想的な展開になっている。

・湿原を守るのと農地を守るのは地下水位の観点では相反することをやらなければならない。泥炭の農地は、排水路等の整備で沈下・分解されるので、事業完了後も客土など草地の管理は重要と考えている。

・地域振興の観点では、セイコーマートの牛乳全量を豊富牛乳が生産しており、自然と酪農が共存共栄している中でおいしい牛乳が生産されており、セイコーマートの牛乳自体が大きなアピールとなっている。

・地域の農家数は減少傾向だが、Uターンや新規就農など例年は 5～6 人。今年は Uターン 1 名で、新規就農が 3 戸だった。新規就農は初期投資も大きいことから、酪農家のもとで 2～3 年研修を行ったあと、地域で審査を行い、大丈夫という若い人が新規就農を行っている。

以上